

釜石は今でこそ「復興先進地」などと呼ばれることもありますが、その道のりは平坦なものではありませんでした。市民、地域の事業者、行政機関(国・県・市)、専門家、といったさまざまなステークホルダーの思惑が交錯する中で、津波に破壊されたまちをどのように復興させるべきなのか、試行錯誤をしてきたのです。

本プログラムでは、「最適な復興の形とは？」という問いへの、釜石なりの一つの答えをお伝えします。被災から復興までの軌跡を、ケースワークを通じて皆さまに疑似体験していただくとともに、実際にまち歩きガイドを聞きながら、復興プロセスを体感していただけます。

特にまち歩きパートでは、釜石の復興の大きなポイントである「市街地の再生」の様々な議論・決定がどのように具現化されたのか、直接見て、肌で感じていただけるものになっています。

① まちづくりケースワーク (60分)

まずは、被災直後にタイムスリップしていただくケースワークを通じて、まちづくりの計画策定を疑似体験します。防災・行政・商業・住居といった様々な角度から、最適な復興のあり方を考えます。



③ まち歩き(中心部) (沿岸部と合わせて60分)

実際にまちを歩きながら、当時の津波の被災状況や、何気なく建っているように見える市民ホールやショッピングモール、カフェ、復興住宅の背景に込められたストーリー・想いを解説します。



1

2

3


4

まちの防御

釜石市

津波の浸水を許容する

- ・防潮堤は6.1m
- ・一部を除き、大きくかさ上げしない



© Kamaishi-DMC Ltd. All Rights Reserved.

② ケースワーク解説 (30分)

種々の意見対立に対して、釜石市がどのような意図や想いをもって対峙してきたのか。その議論や取り組みの過程を紹介しつつ、最終的にどのような街並みにたどり着いたのか、網羅的に解説します。



④ まち歩き(沿岸部) (中心部と合わせて60分)

街の中を抜けて、防潮堤に囲われた釜石港周辺までご案内します。ガイドとともに見れば、一般的な港との違いだけでなく、他の三陸沿岸部との復興まちづくりの思想の違いも鮮明に見えてくるはずです。



3名~24名 ※人数が24名以上でも、グループを分割するなどして対応いたしますので、ご相談ください。



2時間半 ※まち歩きのための1時間コースなど、実施時間は柔軟に調整可能ですので、ご相談ください。



歩きやすい靴、動きやすい服装にて、お越しく下さい。また、冬季は防寒対策をお願いいたします。



得られるもの

- 対立意見を一つにまとめ上げるリーダーシップ
- 市民や住民の意見を聞くことの難しさの意味
- 正解のないものに向き合う際に求められる姿勢
- これからのまちづくりのあり方のヒント

料金・日程のアレンジ等、お気軽にお問い合わせください!

お問い合わせ: うのすまい・トモス事務局 いのちをつなぐ未来館 ワークेशन担当: 菊池

☎ 0193-27-5666

✉ tomosu@dmo-kamaishi.com

🌐 <https://www.workcation.visitkamaishi.jp/>

